The Philosophy of TAKAHASHI SOUGISHA

Shinobu Sato

たかはし葬儀社の魅力を未来へ繋ぐ

ご満足していただけるご葬儀を実現するために、人を思いやる。
これは、現場でも教育でも一貫している、私の想いです。

たかはし葬儀社へ入社するまでに、父と親戚、二人の身近な人の死を経験しました。
納棺師に初めて出会い、驚きや感動といった衝撃を受けた父の死。
人は必ず死ぬのだという事実を強く実感した親戚の死。
これらの出来事から「納棺士になりたい」と葬儀社への転職を決意しました。

最初にいただいた業務はディレクターの補佐。
働くうちに、納棺はもちろん、亡くなられた方の最後の儀式を創り上げるディレクターの仕事に興味を持ち、ディレクターを目指すことに。

時には、納棺士さんによる納棺の場面にも立ち合わせていただき、一連の流れを教えていただくこともあり、憧れの仕事に携わることができました。

やがて経験を重ねるなかで、葬儀とは、故人様をお見送りするだけでなく、残されたご遺族様が大切な方が亡くなったことを受け入れ、日常生活に戻るための儀式なのだと考えるようになりました。

だからこそ、ご遺族様の心の痛みが少しでも消えるように、心を込めて儀式を行なうことを心がけています。ご葬儀の主役はあくまでもご葬家様ですので、故人様を無事送り出せるよう、黒子としてサポートするのが私たちの役目です。

大切な方を亡くされたご遺族様の痛みや悲しみを、すべて理解するのは難しいかもしれません。しかし、私がしたかったのは「ご遺族様の想いを汲み取り、安心して明日に向かえるように、陰ながら支えること」だったのだと日々実感しています。

入社から時が経ち、式の担当だけでなく、新入社員の教育も担当するようになりました。
教育をする際に心掛けているのは、葬儀の仕事の魅力を伝えることです。

転職したばかりの頃の私を振り返ると、今までにない出来事をたくさん体験していました。
覚えることと同じくらい、できるようになることもたくさんあり、一つひとつが新鮮で、仕事の時間がとても充実していました。

私が感じたような、仕事の魅力を後輩たちへ伝えたい。
「この会社に入ってよかったな」「日々の仕事が楽しい」と思ってもらいたい。
今は、そんな想いで教育に当たっています。

私が伝えたことで後輩たちの引き出しが増え、今よりももっと、ご遺族様に満足いただけるご葬儀が実現できるようになると嬉しいなと思っています。

The Philosophy of TAKAHASHI SOUGISHA

あなたと共におくる

Shinobu Sato